

本書の目的

「政治や政策について、どう判断すればいいか、どう行動すればいいか、学校でほとんど何にも習ったことないのに、20歳になったからといって、いきなり判断しろ、投票しろと言われても、投票なんか行けるわけがない。」

私が沖縄県明るい選挙推進協議会の会長になって、最初の年の青年リーダー研修での成果発表の時です。投票率低下の原因、特に若年層の低下の理由を考えるワークショップの最後、学校教育に問題があるとの意見をまとめたあるグループの発表でした。

愕然としました。そして深い衝撃を受けました。投票率の低下は、学校教育そのものの教育内容に問題があるという意識が正直なところ希薄だったのです。確かに、自分自身の小・中・高校時代の記憶をいくら辿ってみても、政治や政策について判断力や行動力を身につける学習を思い起こすことはできません。そこで、小学校・中学校の社会科教科書を調べてみることにしました。

その結果分かったことは、政治についての学習の大半は、国や地域の政治の仕組みに関する理解が占めているという事実です。政治に関する法律や制度を子ども向けに書き下ろした説明です。地域の公共施設を調べる学習や地域的課題の発見学習が散見されるものの、それを体系的に政治的な判断力や行動力に発展させていく学習体系が見えてこないのです。「政治」を、ここでかりに自分を含めたみんなに関わる「公共的な問題の解決」としておくと、解決の枠組みを教えていくという内容に比重が置かれ、自分たち自身で公共的問題の解決をしていく判断力と行動力を学習する、体得するための内容が充実していないのです。そのような力を持つものを「市民」とすると、「市民を育む学習」の体系が充分ではないということです。

この副読本は、最初の若者の発言にあった問題提起に応え、現在使用されている中学社会の教科書の不足部分を補う目的で作られたものです。「政治」をもっとも身近で分かりやすい「地域づくり」として捉え直しています。まず、話し合いのきっかけ作りと地域づくりに向かう意識喚起を行い、地域的な課題発見、具体的な解決の立案を、話し合いの場をしっかりと作りあげながら体得していくという「話し合い学習」プログラムとなっています。解決策や政策についての判断能力の質を高めるために、近年一般化されつつある「マニフェスト」という達成すべき具体的効果や手法を盛り込んだ、より現代的な施策提案方法を盛り込んでいます。中学校の授業のみならず、生涯学習や市民による地域づくりの場においても充分にご利用できるかと期待しています（解説・指導書は<http://plaza.rakuten.co.jp/okinawalocalmani>に掲載）。

沖縄県明るい選挙推進協議会からこの副読本作成の依頼を受けた琉球大学教育学部島袋純政治学研究室では、沖縄県南風原町総務部企画財政課（子ども議会担当）、琉球大学教育学部附属中学校（社会科教室）の協力によって、中学生に対する新しい授業の実践を試みました。この副読本は主としてその経験と反省を活用したものとなっていますが、さらには、沖縄自治研究会及びローカルマニフェスト推進ネットワークからの情報提供やご支援が欠かせませんでした。ご協力いただいた関係者の方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

沖縄県明るい選挙推進協議会会長 島袋純

目次

1	みんなが納得するように	
	Chapter 1 落ち葉で周囲を汚してしまう木	2
2	みんなが参加するために	
	Chapter 2 みんなで掃除をするはずだったのに	4
3	市民性教育の目的	
	Chapter 3 学校で政治を学ぶ理由	6
4	個と行政の関わり	
	Chapter 4 生活を設計してみよう	9
	Chapter 5 みんなのまちをつくろう	12
5	地域に潜む隠れた問題を探る	
	Chapter 6 まちを歩いてみよう	22
	Chapter 7 まちづくりワークショップをしよう	26
	Chapter 8 問題の原因を確かめよう	35
6	科学的に問題を解決する	
	Chapter 9 まちをつくるのは誰?	38
	Chapter10 マニフェストで見える中身	41
	Chapter11 マニフェストでアピールしよう	44
7	市民を必要とする社会	
	Chapter12 マニフェストで地域づくり	46
	Chapter13 市民になろう	51

Chapter 1 落ち葉で周囲を汚してしまう木

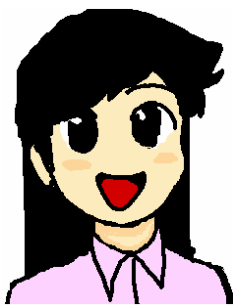
みんなが納得するように

まちの中心地にある歩道の脇に、大きな木があります。この木は昔から、このまちのことを見守り続けていました。夏は日差しを避ける木陰をつくり、冬は色とりどりのイルミネーションを身にまとして、住民達から親しまれています。

そんなまちのシンボルである木が原因で、住民同士が言い争いを始めてしまいました。

木の落ち葉がひどくて、歩道も、近くの家の庭も、みんな汚れてしまっているよ。

これじゃあ迷惑だから、残念だけど、もう木を切り倒してしまおうよ。



昔から大切にしてきた、まちのシンボルの木を切り倒すなんてとんでもないよ。

今までみんなが大切にしてきたのだから、これからも大切にしていけるべきだよ。

木を切り倒すかどうかで、もめているようです。それぞれに言い分があるようですが、あなたはどちらの意見に賛成できますか？

木を切り倒す	木を残す
落ち葉で周囲が汚れることは無くなる	長年大切にしてきた木を守り続けることができる
大切にしてきた木がなくなってしまう	落ち葉で周囲の人が迷惑を受ける

木を切り倒すにしても、残すにしても、住民の間に不満が残りそうです。どうにかして、みんなが納得できる解決方法を見つけられないでしょうか？

この問題でもめているのは、落ち葉が周囲を汚してしまうことに原因があります。落ち葉が周囲を汚してしまうことについて、木を切り倒すこと以外の、何か良い対策方法があれば、この言い争いは上手く解決しそうです。

やってみよう！

木を切り倒す派と木を残す派に分かれて、お互いが全員、納得できるような解決方法を話し合ってみよう。

私たちは必ずしも、全員が全てにおいて満足のいくような状況にはありません。このまちには、まちのシンボルである木のおかげで豊かな生活を送っている住民がいる一方、その木の落ち葉のおかげで苦しんでいる住人がいます。ここで落ち葉の問題を解決するために木を切り倒してしまうと、落ち葉で苦しんでいる住民は助かるのかもしれませんが、木を大切にしていた住民は悲しい思いをしてしまいます。

このような場合は、どちらか一方の意見だけを尊重するのではなく、お互いの意見を尊重する必要があります。そしてお互いが問題としている原因は、それぞれ何かを慎重に見つけ出し、その原因をみんなが納得のいく方法で解決していくことが重要です。

この問題の原因は「木があること」ではなく、落ち葉で周囲が「汚れていること」でした。ですから、木を切り倒さなくても、落ち葉で周囲を汚さないようにする方法を見つければ良いのです。

Chapter 2 みんなで掃除をするはずだったのに

みんなが参加するために

ある学校での話です。

この学校では、トイレがあまりにも汚かったために、これ以上汚くされては困ると、先生達によってトイレが閉鎖されてしまいました。

トイレが閉鎖され使えなくなってしまうのは、とても困ってしまいます。そこで生徒会は話し合いを行い、「毎日放課後に、生徒全員が交代でキレイに掃除をするので、トイレを今まで通り使わせて欲しい」と先生達と交渉し、トイレを今まで通りに使わせてもらえることになりました。

ところが、全員で掃除をすると決めたはずなのに、決まり通りに掃除に参加する生徒と、参加しない生徒がでてきてしまいました。そこで生徒会は、全校生徒にアンケートを取りました。

決まり通り掃除に参加している生徒の意見

- ・トイレがまた使えなくなったら困るから、ちゃんとキレイにしたい
- ・掃除をしない人がいるのは不公平
- ・掃除をしない人がいるから、1人あたりの仕事がふえて大変
- ・掃除をしない人はトイレを使えないようにして欲しい

掃除に参加しない生徒の意見

- ・学校では時々しかトイレを使わないし、またトイレが使えなくなっても自分は困らない
- ・汚れたトイレをキレイに掃除するのが、とても面倒
- ・みんなが掃除しているから、自分だけ掃除をしなくても変わらない

生徒会はアンケートの結果から、全員が納得できる解決方法を見つけ出そうとしました。問題の原因は

- ・トイレをよく使うかどうかで、人それぞれトイレに対する必要性が違っている
- ・汚れたトイレをキレイにする大変さ
- ・1人分の掃除でどれだけキレイになるか、1人分のサボりでどれだけキレイにならないかが分からないから、やる気も責任も感じない

以上の点だと分かったのですが、この原因を解決する方法が思いつきません。

それで生徒会は、全校生徒から「みんなが掃除に参加できる方法」についてアイデアを募集することにし、ポスターを作成しました。

みんなが掃除に参加できる方法についての アイデア募集

トイレをキレイなままにしておかないと、またトイレが使いなくなってしまいます。

人それぞれトイレを利用する回数に差はありますが、全員が全く使わないという事はないし、トイレが近くにあるということは、とても便利なことです。

掃除をしない人はトイレを使いなくするのではなく、よく使う人も使わない人も、みんなが使えるように、みんなが掃除をするようにしたいのです。

そこでみんなが掃除に参加するようになるためのアイデアを募集しています。アイデアが浮かんだ人は、生徒会室前の「ご意見ボックス」に投稿してください。

みんなにかかわることです！

みんなアイデアを出し合って解決しましょう。

考えてみよう！

この問題の解決案を考えてみよう。考えた解決案は、実際に実行可能で、解決可能なアイデアになっているか、友達同士で話し合ってみよう。

Chapter 3 学校で政治を学ぶ理由

市民性教育の目的

日本では小学校6年間と中学校3年間の計9年間学校に通い、さらにその後、高校や大学、大学院というように、自分で望んで進学する場合がありますね。

ところで、あなたはどのようにして学校に通うのでしょうか？

「友達に会えるから」「勉強が楽しいから」「通わないと怒られるから、仕方がなく」と、人それぞれに理由があるでしょう。学校に通わないと怒られるというのはよくあることですが、どうして学校に通わないと怒られてしまうのでしょうか。それには「学校に通って欲しい理由」があるからです。

学校に通って欲しい理由

さて、あなたは「教育基本法」という法律を知っていますか？

「法律なんて難しくてよく分からないよ」と感じる人もいるかもしれませんが、教育基本法とは教育のあり方について決められたルールです。ということは、教育基本法の中に「教育を受けて欲しい理由」、つまり学校に通って勉強をして欲しい理由を考えるヒントがありそうです。

そこで教育基本法を見てみましょう。

第1条（教育の目的）

教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

簡単に言うと「平和的な国家や社会をつくる人間を育てる」ことが、教育の目的だということです。ということは裏を返せば、「平和的な国家や社会をつくる人間になって欲しい」ので、学校に通って欲しいということです。

考えてみよう！

「平和的な国家」「平和的な社会」とは、どんなものなんでしょうか。
「平和的」とは、どういうことでしょうか。あなたが「平和的」だと感じる時、反対に「平和的ではない」と感じる時は、どんな時ですか？

政治について学習する意味

あなたは社会科が好きですか？

社会科というと暗記ばかりで、また言葉も難しすぎて何を言っているのか分からないなど、悪いイメージを持っている人も少なくないと思います。特に政治などは、大人の人でもよく分からない場合があるので、「そんなの大人になってから分かればいいよ」と、投げだしたくなりますよね。

さて、先ほど見た教育基本法の中に、以下の文があります。

第8条（政治教育）

良識ある公民たるに必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない。

政治教育について決められている部分です。「良識ある公民」とは、十分な知識と判断力と行動力を持って、政治に積極的に関わろうとする人間の事です。

ところで先ほどから「政治」という言葉が何度も出てきていますが、「政治」とはどのようなものか、説明できますか？

政治の内容について学習することはよくありますが、「政治とは何か」について考えることは、あまりありませんよね。政治には大きく分けて2つの意味があり、1つは「みんなが従わなければならない枠組み」のことを言います。学校でよく習う政治は、国会のしくみや行政のしくみ、民主主義のしくみなど、このタイプの政治のです。

そしてもう1つの意味は「みんなが納得する方法で、みんなに関わることから決めていくこと」です。世の中には、1人の力ではどうにもできないことが多くあります。みんなの幸せのためには多くの人が力を合わせて取り組まなければならない場面も多くあります。そのためには友達同士、地域の人、国民、世界中の人々など、関わる全員が納得のいく方法でなければ、協力しあうのは無理です。なにも国会や内閣の政治だけが政治ではありません。「Chapter 2 みんなで掃除するはずだったのに」で取り上げられたような教室の掃除につ

いて決めることも小さい範囲ですが、政治とすることができます。一人に任せるのではなくみんなの話し合いで決めようというのが民主的社会的政治です。

このどちらか一方の意味のみが大切なのではなく、両方の意味が大切です。なぜならば、枠組みやしくみを分かっている、そのしくみへの係わり方を実際に体得していなければ積極的に参加できません。また、係わり方を理解していても、しくみが分からなければ積極的に参加できません。

鍵のかかったドアを開ける時に「鍵がかかっている、開ける鍵が必要だ」と鍵の必要性の認識と、実際に鍵をどのように使うかについての両方の知識がなければ、そのドアを開けることができないのと似ています。鍵の必要性だけ理解できても、鍵の使い方を体得していなければ、そのドアを開けることはできません。同様に、鍵の使い方を知っていても、そのドアで鍵を使う必要があること自体を認識できなければ、やはりドアを開けることはできません。

考えてみよう！

学校で「政治」を学習するのは、「政治」について学んで欲しいからですが、その理由とは、何でしょうか？みんなで話し合ってみましょう。

友達と遊びに出かける時

友達と遊びに出かける時の、行動や思考を思い出してみましょう。まずは遊びに出かける先を決めなければなりませんね。その時、頭の中では「遊べる時間・使えるお金・遊ぶ方法」これらの情報を基に、自身の希望を交えながら、自分の意見をまとめ、友達同士で話し合い、遊びに出かける場所を決めますね。

時間やお金の計算には、数学的な能力や理科の知識を利用します。遊びに行く先の場所の把握には、地理的知識も利用しますね。自己主張するためには、国語能力を利用して正しい言葉と表現を行わなければなりませんし、相手の意見を理解するにも国語能力が必要になります。

このように何気ない日頃の行動には、学校で学んだ能力を活用している場面が数多くあるのですが、このように各教科の様々な能力を総動員して「友達同士で話し合い、最も納得のできる結論を導き出せる」ことが政治的能力です。

つまり民主的社会的における政治的能力とは、あなたがより良く生きていく上で必要不可欠な能力なのです。

Chapter 4 生活を設計してみよう

個と行政との関わり

自分の将来について考えた事はありますか？

勉強することを促されるときに、「将来のことをもっとよく考えて、勉強をなさい」と言われることはないですか？

将来のことを想像しなさい・考えなさいと言われても、やったことのない仕事については表面的なことしか知らないし、自分自身でお金を稼いで1人で暮らしたこともないのでは、なかなかリアルな想像なんてできませんよね。

ところで沖縄県民の平均的な生活が、どのようなものか知っていますか？
1世帯（1つの家庭のこと）の平均的なデータを見てみましょう。

世帯主の収入	非消費支出	消費支出
270,483 円	38,910 円	241,908 円

非消費支出とは、所得税・住民税・社会保険料の合計のことです。所得税は収入にかかる税金であり、国の運営に使うお金として国に納めます。住民税は、住んでいる地方自治体（県と市町村）に納めるもので、その自治体を運営する資金になります。社会保険料とは健康保険や年金など、病気になった時の医療費や、65歳以上の人の老後の生活費を支給するために納めるものです。

この1世帯の平均的な姿は、3～4人家族で、世帯主（親の片方）年齢が40～45才の家庭です。あなたの家庭と、どこか似ているところはありませんか？

考えてみよう！

ところで数字をよく見たら、収入が27万円程度しかないのに、支出が合わせて28万円程度もあります。お金がないのに、お金を使うことはできません。どこから別にお金を得ているはずですか。足りない分のお金は、「誰が」「どこで」「どうやって」得ているのでしょうか？

自分の考えがまとまったら、友達と意見を交換して、他にも違った考えがないか探してみましよう。

消費支出について、さらに詳しく見てみましょう

食費	55,713 円	交通・通信	31,726 円
住居費	23,719 円	教育	13,626 円
光熱・水道	17,786 円	医療	9,425 円
家具	7,879 円	教養・娯楽	17,720 円
服	8,486 円	その他	55,828 円

これは1世帯の平均的な消費支出の金額です。例えば食費について、高いレストランで外食をくり返すようなリッチな生活を送っている人は、この金額よりも高くなりますし、逆に自宅で質素な食事しか取らない人は、この金額よりも低くなります。子どもを私立の学校や塾に通わせようとするれば、教育費はさらにかかりますし、奮発して高い服を買えば、衣料費はさらに上がります。住居費は、アパートを借りている人だと、さらに高くなります。

やってみよう！

将来、あなたが大人になった時の生活設計をしてみましょう。

家族は自分自身を含めて4人（配偶者1人、子ども2人）、1ヶ月の世帯収入は33万円ですが、将来のことを考えて1ヶ月に2万円は貯金をしたいので、1ヶ月を31万円で行きくりします。

現在の自分自身の家庭生活を参考にしながら、将来は「こういう生活をしたい」「こういう家庭にしたい」というイメージを書いてみましょう。

()

次のページの表を参考にして、 で思い浮かべたイメージを基に1ヶ月の消費支出を設計してみましょう。ただし合計金額が31万円を超えてはいけません。食費、住居費等、生活水準をそれぞれ自由に設定してかまいませんが、固定費（税金等）はあらかじめ決められています。

食費	住居費	服飾費
教育費	娯楽費	固定費
		160000 円

基準となる金額と生活水準

	低い水準	平均水準	高い水準
食費	40,000 円	55,000 円	70,000 円
住居費	35,000 円	55,000 円	70,000 円
服飾費	5,000 円	10,000 円	30,000 円
教育費	5,000 円	20,000 円	40,000 円
娯楽費	0 円	20,000 円	50,000 円
家具	10,000 円		
交通・通信	30,000 円		
医療	10,000 円		
光熱・水道	15,000 円		
税金等	40,000 円		
その他雑費	55,000 円		

食費	低い水準	必要最小限の量と質
	平均水準	現在の食生活と同等
	高い水準	外食回数が増え、食卓の品目も増える
住居費	低い水準	6 畳程度の部屋が 3 室、風呂・トイレ同室
	平均水準	6 畳程度の部屋が 4 室、風呂・トイレ別室
	高い水準	6 畳程度の部屋が 5 室、風呂・トイレ別室
服飾費	低い水準	量販店で必要分購入
	平均水準	量販店で欲しいものを購入
	高い水準	セレクトショップで欲しいものを購入
教育費	低い水準	学校に通わせるだけ
	平均水準	塾か習い事にも通わせる
	高い水準	私立の学校に通わせる
娯楽費	低い水準	お金のかかる楽しみを全く行わない
	平均水準	現在の娯楽活動と同等
	高い水準	好きな時に好きなだけ楽しむ

Chapter 5 みんなのまちをつくろう

個と行政の関わり

まちづくりゲームをしよう。

このゲームは、架空のまちの地図の上に、参加者全員で話し合ってコマ（公共施設）を置き、より住みたくなるようなまちをつくるゲームです。

1人からでもできますが、複数の人でやると良いでしょう。またゲーム参加者の中に、直接プレイヤーとして参加するのではなく、審判として話を整理する係りの人がいると、ゲームを進めやすくなります。

また、ゲームキット（15ページから21ページの地図やコマ）はコピーしてから利用しましょう

まちづくりゲームの基本ルール

このゲームは、海に囲まれた島のまちに、新たな公共施設を設置していくゲームです。公共施設を作るためには、お金がかかります。まちの住民が5年間、税金として納めたお金を使って、公共施設を設置していきます。

まちの人口は35,000人です。その内、働いていて税金を納めている人は、15,000人です。

地図（全6枚）をつなぎ合せて、1つの大きなまちの地図にしましょう。コマは1つ1つ切りはなします。

ゲームの参加者が2人以上の場合、まちの中での自分のテリトリーを決めましょう。まちには全部で10の集落があります。多くの人に住んでいる集落もあれば、あまり人が住んでいない集落もあります。全員で話し合って、各集落をひとつずつ、誰のテリトリーにするのか決めてください。テリトリーとする集落の数は、全員がほぼ同じ数になるように割りふってください。ゲーム参加者が集落数を上回る10人以上の場合は、数人でグループを作って、チーム戦で行うと良いでしょう。

自分がテリトリーにした集落は、テリトリーにした人の意見や判断によって、集落に住む人の住みやすさが左右されます。つまり集落をテリトリーにした人は、その集落に住む住民の代表者として、意見を主張する必要があります。

なお、どの集落も人口が異なりますが、人口構成比（子どもと大人、老人の人数の割合）は同じです。どの集落にも必ず、子どもも老人も住んでいます。また各集落の総人口は、集落に建っている家の数を参考にしてください。家1つあたり、1,000人の人口を表しています。

テリトリーが決まったら、ゲーム参加者同士で話し合って、コマ（公共施設）を配置していきます。コマを配置するときは、必ず参加者全員で話し合って、全員の納得する場所に配置してください。誰かの勝手な意見だけで、コマを配置する場所を決めてはいけません。

コマは、参加者全員が了解すれば、海以外の陸上なら、どこに配置してもかまいません。ただし「小学校」「下水処理場」「ゴミ処理場」「飛行場」は必ず全部配置してください。役所は「役所（小）」と「役所（大）」があります。どちらか1つを必ず配置してください。「運動公園」は、コマを配置するかしないかは自由です。

コマ（公共施設）には、配置するために必要な金額があります。配置に必要なお金は税金として、まちに住む人々に納めてもらったお金を利用します。

コマの配置に必要な予算（5年間の税金の総額）を決めます。予算の算出方法は、下の式の通りです。

$$1 \text{ 人あたりの税金額 (月額)} \times 12 \text{ ヶ月} \times 5 \text{ 年} \times 15,000 \text{ 人 (納税者数)}$$

1人あたりの税金額（月額）は、「Chapter 4 生活を設計してみよう」の生活設計を参考にしながら、みんなで話し合って自由に決めてください。例えば「1人あたりの税金額は2万円」とすると、

$$2 \text{ 万円} \times 12 \text{ ヶ月} \times 5 \text{ 年} \times 15,000 \text{ 人} = 18,000,000,000 \text{ 円}$$

となり、予算は180億円となります。

予算をなるべく余らせないように、税金額は、本当に必要な金額に設定してください。また予算が足りなくなってもいけません。

ゲームの途中で予算が足りなくなる、もしくは多く余りすぎる事に気づいたら、その場でまた予算額を決めなおしてもかまいません。

コマ（公共施設）の配置に必要な金額

コマ（施設）	配置金額	施設の特徴
小学校	30 億円	子どもたちが通いやすい学校にしたい
運動公園	100 億円	住民が楽しめる場所にしたい
役所（小）	40 億円	小さいので、安いが利用しづらい
役所（大）	60 億円	大きいので、高いが利用しやすい
下水処理場	30 億円	汚水が集まる施設
ゴミ処理場	30 億円	ゴミを焼却する施設、かなり臭い
飛行場	150 億円	島外に出る時には便利だが、うるさい

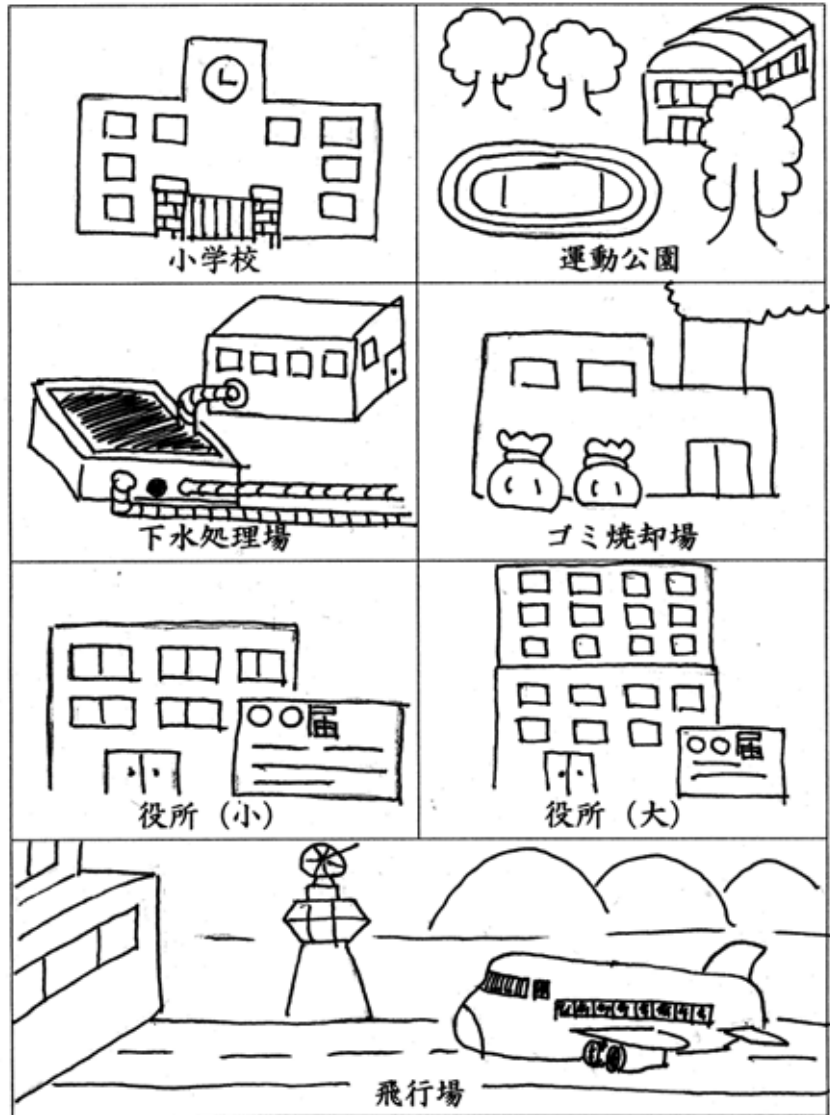
やってみよう！

1人当たりの税金額（月額）と、予算総額を決めて、下の表に記入しましょう。

1人当たりの税金額（月額）	予算総額
円	円



ゲーム用コマ



上のコマや次のページの地図は、コピーしたものを切り取って使いましょう。

地图



地图



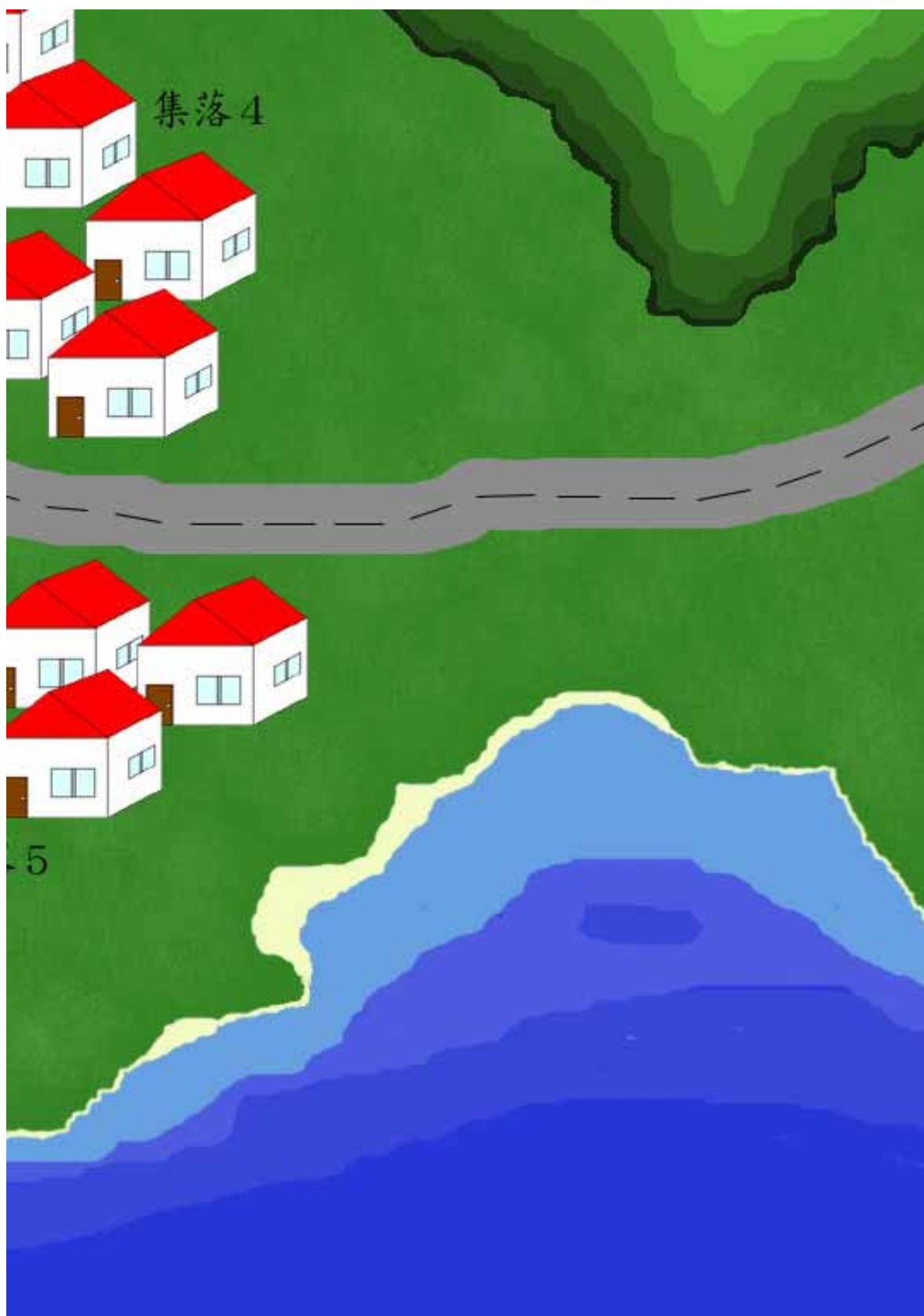
地図



地图



地图



地図



タウンウォッチング

今度は、自分たちの住む地域の地域づくり、まちづくりを考えます。

タウンウォッチングやヒヤリングでは、自分たちの住んでいる地域の様子を
知ることが重要です。そして私たちの暮らしの中でどのような課題があるのか
について観察し考えてみましょう。私たちが自分のまちで暮らしていく上で良
いと思うところ、良くないと感じるところについて、まちを観察しながら見つ
け出してみましょう。

ポイント！

地域づくりの課題を発見するために、
前もってどういう視点から、何を見るのか、考えておきましょう。

やってみよう！

まちを歩いてみよう（タウンウォッチング）

自分たちの住んでいるまちを見て回り、普段は気にしていないところも、い
ろいろな視点から観察し、そこからまちの抱える課題について考えます。

いろんな視点からまちを評価してみよう。

たとえば、

- 1) 車いすに乗っている人が、まちを不自由なく移動できるか
- 2) 子どもにとって安全・安心なまちか
(通学路は安全か、放課後の居場所はあるか)
- 3) まちの中に自然はあるか、まち並みは見ていて心地良いか
- 4) 人と人との繋がりは充分か、地域の活動は充分か
- 5) 公共施設は充分に利用されているか、また利用しやすいか、無駄
なところはないか

などがあります。

まちを歩いて「良いと思うところ」・「良くないと感じるところ」をメモに書いていこう。（「まちの課題」を発見しよう）

「まちの課題」のうち、「良くないと感じるところ」で一番問題があると思うものについて、良くないと感じる「原因や理由」を考え、メモに書いておこう。

タウンウォッチングの時のメモの取り方の一例

あらかじめ、ワークシートやメモ帳を用意して、タウンウォッチングに臨みます。

- ・ ワークシートだと、事前に設定した枠におさまる数で課題発見を終えてしまう可能性があることに注意しましょう。
- ・ 思いついたことをどんどん書いていけるようにするには、小さなメモをもって歩き、発見したことをその場でどんどん書きこむようにすると良いでしょう。
- ・ また大きめのポストイットを用意してそれをメモ代わりに使い、後でワークシートに分類しながら貼り付けていく方法もあります。

ワークシートの一例

まちの良いと思うところ	考えられる原因・理由
1 ,	1 ,
2 ,	2 ,
3 ,	3 ,
4 ,	4 ,
5 ,	5 ,
6 ,	6 ,
まちの良くないと感じるところ	考えられる原因・理由
1 ,	1 ,
2 ,	2 ,
3 ,	3 ,
4 ,	4 ,
5 ,	5 ,
6 ,	6 ,

まちには、こんなところはないかな？



溝に落ち葉がたまっているよ。汚いなあ。



フェンスが壊れているね。危ないなあ。



道に歩道がないよ。歩行者はどこを歩けばいいんだろう？



ゴミ捨て場じゃないのに、ゴミが放置されているよ。迷惑だね。

よく見ると、日頃は気づかない問題がたくさんありますね。自分が住んでいるまちも、意識しながらよく観察してみよう。

ポイント！

タウンウォッチングは、地域づくりの課題発見のためです。
前もってまちを見る視点を考え、メモをとる用意をしてまちを見て歩き、気がついたことや気になったことにことをメモしていくことが重要です。

タウンウォッチングの成果を生かした取り組み



ワークショップによるグループ学習とグループ発表